

# 水で変わる、東京の未来

外濠水辺再生協議会 10年のあゆみ

2016 ▶▶ 2025



# 組織について Who

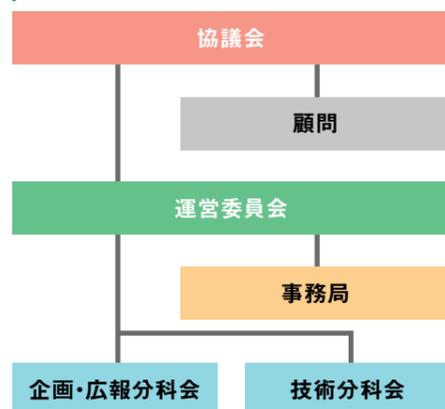
外濠水辺再生協議会は、千代田区と新宿区、港区にまたがる外濠周辺の企業が集まり、2016年5月20日に任意団体として設立されました。2025年度の幹事企業は、鹿島建設株式会社、株式会社西武不動産プロパティマネジメント、前田建設工業株式会社の3社。一般企業として、大日本印刷株式会社、株式会社日建設計、日本コンベンションサービス株式会社、前澤工業株式会社の4社が参加しています。

協議会には企画・広報分科会と技術分科会があり、それぞれイベントの企画や情報発信、水質浄化・景観改善に関する提案などを行ってきました。さらに外濠周辺の地域、行政、学識者と連携することで、課題解決に向けた活動と提案の実

## さまざまな角度から外濠の問題解決に挑む

現に尽力してきました。経済的成長を成し遂げた利便性の高い都市空間、多様な生物が生息し四季を感じられる自然空間、江戸城を中心とした歴史を感じられる文化空間を目指し、外濠周辺を「豊かな暮らしの空間」として次世代に残していくことを目指してきました。

### 協議会組織図



外濠再生イメージ

5W1H  
で知る

# 外濠 水辺再生協議会の活動

「外濠」の再生を目指してさまざまな活動をしてきた「外濠水辺再生協議会」。  
私たちがどんな組織でどのような活動を行ってきたのかをご紹介します。

## Why

### 活動の目的

水質を浄化して景観を改善  
貴重な遺産である外濠を再生

かつて江戸城の外側を取り囲んでいた外濠である「外濠」。自然と歴史の融合する貴重な文化的遺産でありながら、約400年の時を経て、外濠の役割は時代に応じて変わっていきました。水質を含め周辺の環境もすっかり様変わりしています。

私たちは、まずは水質の浄化を進めることで、昔のように多種多様な生物や植物が生息できる環境を取り戻し、豊かな水辺を整えたいと考えました。さらに、外濠の周辺に点在する貴重な史跡群を含めた環境を整備し、外濠を今よりも美しい姿に変えて、100年、200年先の世代にまで残していきたいと考えました。

2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会以降、東京に対する海外からの期待もさらに高まっています。より美しい自然と水辺環境を有する都会のオアシスでありたい、日本に住む人、東京で暮らす人たちにとっても、訪れたい街であり、生活する喜びを感じられる都市でありたい、と強く考えております。

そんな東京ブランドの価値を高めるために、「外濠」が果たす役割はきつと大きいに違いありません。私たちの活動を皆さまに知っていただくことで、外濠を再生することの意義をお伝えすると同時に、この思いを次世代につなげていきたいと思っております。

### 参加企業

- | 幹事企業                   | 一般企業            |
|------------------------|-----------------|
| ● 鹿島建設                 | ● 大日本印刷         |
| ● 西武不動産<br>プロパティマネジメント | ● 日建設計          |
| ● 前田建設工業               | ● 日本コンベンションサービス |
|                        | ● 前澤工業          |

### 過去に参加していた企業

- KADOKAWA
- サントリーコーポレートビジネス
- Zコーポレーション
- 博報堂
- 博報堂DYメディアパートナーズ
- 博報堂デジタル
- Mapbox Japan
- 森ビル
- ヤフー
- レンタルのニッケン



# Where

## 外濠MAP



「市ヶ谷濠」、「新見附濠」、「牛込濠」の総称「外濠北側3濠」のエリアと、紀尾井町周辺の「弁慶濠」が現在の外濠の水辺地域。さらに埋め立て部分を含めた弁慶濠から牛込濠に至る外濠の全域を協議会の活動範囲と定めた

協議会では、状況の異なる両エリアでそれぞれ適切な対策を検討しながら活動してきた

# When

## 外濠水辺再生協議会の歴史

- ### 外濠水辺再生協議会の歴史
- 2014年5月30日 JAPIC主催の「外濠再生構想シンポジウム」に参加
  - 2016年5月20日 外濠水辺再生協議会設立
  - 2017年7月25日 シンポジウム「江戸城 外濠と文化」を開催
  - 2019年10月6日 東京都建設局に協議会提案書を提出
  - 2021年9月10日 シードバンク調査の結果を土木学会年次学術講演会で発表
  - 2022年4月15日 外濠水辺再生協議会ウェブサイト公開
  - 2023年5月24日 JAPIC主催の「東京水辺再生シンポジウム」に参加
  - 2025年11月11日 「外濠開削400年へ向けて! 外濠EXPOシンポジウム」を開催

外濠周辺の主要企業や、団体、地域住民の方々のご要望とアイデアを吸い上げ、より良い外濠の周辺環境を提案していくため2016年5月20日、任意団体として外濠水辺再生協議会が設立されました。2019年には東京都建設局に協議会提案書を提出し、外濠の水質改善と景観改善を提案。2021年には濠底シードバンク調査の結果を土木学会年次学術講演会で発表。2022年には公式ウェブサイトを公開し、活動への興味関心の醸成にも努めてきました。そして2025年、約10年間の活動の集大成として「外濠EXPOシンポジウム」を開催し、多くの方に参加いただきました。



# What How

## これまでの取り組みについて

水質浄化、景観改善、防災対策の3本柱で行政に提案を行う

外濠水辺再生協議会の活動の内容として、①水質浄化、②景観改善、③防災対策という3つの柱を掲げました。

①水質浄化は、効果的な水質浄化と維持対策を検討するとともに、行政への提案に取り組みできました。

②景観改善への取り組みは、親水施設や史跡を活かした景観対策のアイデアを検討して行政への提案を行いました。

③防災対策は、外濠の特性を活かした防災・避難対策を考えて、行政へ提案してきました。

イベント開催にも尽力してきました。外濠に関するセミナーやシンポジウムの開催をはじめ、散策イベントや水質浄化と景観改善の活動などに協力。それぞれ多くの方に参加していただき、大きな反響がありました。また、ウェブサイトにパネル展示を通じて外濠の歴史や現状を発信。都民の方を中心に、活動の認知を広めました。

東京都の導水計画を前提に、都市の水辺にふさわしいライフスタイルを提言。市民、企業の枠を超え、外濠に対する興味と共感を高めるためのアクティビティを企画するなど、コンテンツを拡充しました。また、これまでの調査・研究を踏まえ、玉川上水復活後には、「遊べる・泳げる・飲める」という将来の外濠の可能性を探ってきました。



実際に水質調査を行ったり、「外濠EXPOシンポジウム」を開催したりと積極的に活動

「産官学」が一体となって、外濠の価値を共有することで、新しい未来を育む場に期待されています。

東京都では外濠浄化プログラムを推進しています。これは、「歴史的財産である外濠の水質改善を進め、癒しの場を提供するとともに、品格のある景観の形成によって水の都・東京を甦らせる」という取り組みです。2050年代の目指す姿として、「玉川上水や河川等の清流が復活し、外濠では虫が舞い、江戸の昔ながらの風景が再生。歴史・文化を紡ぐ日本橋川を中心に水の都が形成」としています。東京都の行政計画にも記載されていることに、都民の一人として感銘を受けました。

ニューヨークやパリ、シンガポールなどの成熟した都市に共通するのは、「自然と便利さが融合している」ことです。豊かな水と緑が身近にあることで、私たちの生活の質や品格が向上します。歴史と文化を伝える外濠を活かし、子供や孫の世代に、美しい水と緑に溢れ、自然と便利が融合した東京を残したい。産官学が一体となって、外濠の価値を共有し、新たな未来を育む場にしたいですね。



東京都副知事  
宮坂 学氏

1967年山口県生まれ。ヤフーの社長、会長職を経て、2019年9月に東京都副知事に就任。デジタル技術を活用した都政のDXやスタートアップ支援などを行う

「産官学」が一体となって、外濠の価値を共有することで、新しい未来を育む場に期待されています。

## 外濠EXPO2025開催によせて

法政大学名誉教授  
陣内秀信氏

1947年福岡県生まれ。イタリア都市史・建築史学者。イタリア都市と江戸・東京を空間人類学的に比較研究。サントリー学芸賞などを受賞し、メディアでも活躍している



「水都・東京」の復権を、外濠から創り上げていこう。EXPOの開催に期待する！

外濠は東京が誇る貴重な財産です。もともとは、幕府が江戸の町を防御するために造った外濠は、凸凹地形と豊かな自然条件をうまく組み込んだ有機的な都市構造なのですが、全国の城下町で、これほど外濠が残っていることは珍しい。

また、外濠は重要なエコロジーとしての回廊でもあるのです。大正7年には東京水上倶楽部がオープンしたり、周辺の大学の学生たちが遊んだりするなど、当時は市民たちにも大いに活用されました。法政大学デザイン工学部が市谷田町に移転してからは、学生たちと共にワークショップやコンサートなどさまざまな活動をしてきました。2012年には「外濠 江戸東京の水回廊」という本も刊行し、それを機に法政大、東京理科大、DNPとで「外濠市民塾」が生まれ、2016年には「外濠再生懇談会」を立ち上げました。今回の外濠EXPOはいわばマニフェストです。水都・東京の復権を、まさに外濠から創り上げていこうということで、外濠EXPOに期待しています。



「産官学」の連携が生んだ10年の集大成

# 外濠EXPO2025 開催レポート

2025年11月11日、外濠水辺再生協議会主催の「外濠開削400年へ向けて！外濠EXPOシンポジウム」が開催されました。その詳細をレポートします！

市民行政・学術・企業が集結し、外濠の未来を議論

外濠水辺再生協議会が主催し、「外濠市民塾」の協力を得て「外濠開削400年へ向けて！外濠EXPOシンポジウム」がDNPプラザで開催されました。東京都と千代田区という行政の後援を得て行ったこのシンポジウムは、外濠という歴史のかつ都市的資源であるその価値を再認識し、市民・行政・学術・企業がそれぞれの立場で共有し、今後の方向性を議論する場として企画されたものです。

冒頭では、東京都副知事の宮坂学氏と、法政大学名誉教授の陣内秀信氏のビデオメッセージが上映され、両氏の外濠への思いや協議会の取り組みの背景が紹介されました。続いて、運営委員会の中西隆夫副委員長が協議会の設立背景や活動目的を説明。安井利彰技術分科会会長より、水質改善の考え方や提案事例など協議会の活動が報告されました。

その後は、法政大学の福井恒明教授と同大学院生の一柳怜美氏が「外濠市民塾」視点で外濠の価値と魅力を発表し、続いて、東京都都市整備局の瀧口勇太氏が東京都の施策と展望を表明しました。最後に協議会の玉置泰紀氏司会の下、東京都都市整備局の新良京子氏、法政大学の福井教授、東京スリバチ学会の皆川典久氏、協議会の安井氏でパネルディスカッションを行いました。

「産」「学」「官」との連携イメージ



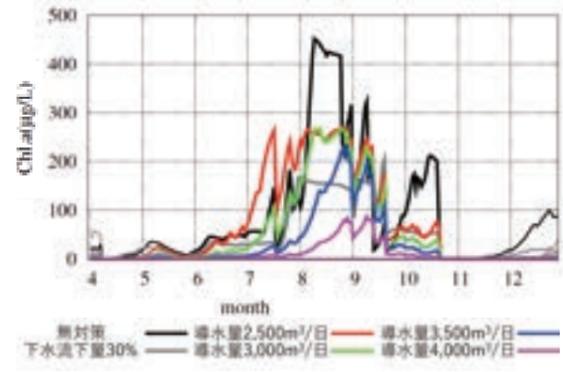
## 「産/企業」の取り組み

## 各社の技術を集約

水質の浄化により、かつての豊かな水辺を取り戻すこと。そのために協議会のメンバーである企業が技術力を活かして外濠の水質改善に取り組んだ、そのプロセスを振り返ります。



## 水質改善効果シミュレーションの一例



貯留管でどれくらい下水の流入を抑えるか、また導水量の適切な値を検討したグラフの一例



シミュレーション精度向上のため、外濠の水の出入りの調査を実施

水とCSO対策は、どちらも大切な柱であり、この2つをうまく組み合わせることが重要だと示されたのです。

現在、豪雨時の下水の流れ込みを防ぐための貯留管が整備されており、北側3濠への下水流入は大幅に減っています。また、荒川の水や下水再生水を外濠に引き込む計画も進められています(2030年代完了予定)。今後、北側3濠のさらなる水質改善が期待されています。

**「アオコ」の発生を抑制する水草の可能性に着目**

弁慶濠では、ホザキノフサモという水草がよく育っており、そのおかげで水の透明度が高く、アオコの発生がほとんどありません。これは、水草が放出する化

学物質によって藻の増殖を抑える「アレロパシー効果」と呼ばれる働きによるものと考えられました。

このことから、北側3濠でも、かつて繁茂していた水草が復活すれば、水質改善の効果が期待できるのではないかと仮定しました。そこでまず、各濠の底泥を採取し、過去の水草の胞子が残存していないか調査を行いました。

その結果、縄文時代の外濠周辺には針葉樹と広葉樹が混在する自然度の高い森林が広がり、湿地ではイネ科やカヤツリグサ科、キク科など湿地性の草本類が多く見られ、これらに加えてカタバミやシソ科植物など、他環境にも広く分布する草本類も混生していたことが分かりました。しかし、水質浄化に寄与する水草の胞子

## EXPO 2025 Report

科学的な調査と分析活動により外濠の水質浄化改善策を提案

技術分科会では、外濠の水質改善を単なる工学的な問題ではなく、都市のインフラや歴史、景観が関わる幅広い課題として捉えながら、よりよい外濠の環境づくりに向けた調査や検討を続けてきました。外濠の状態を科学的に調べ、水質の変化や水の流れ方を明らかにすることで、改善に向けた具体的なアイデアを提案しています。

北側の3つの濠では、雨が強く降った際に下水道から処理前の水(CSO)が流れ込むことがあり、その影響で栄養分が増えてアオコが発生しやすくなる問題が続いていました。また、外濠は構造的に水が滞留しやすく、これも水質悪化の一因となっています。こうした状況を踏まえ、技術分科会では、外濠に入る水の量や質、雨の日の流れ込みを減らす工夫など、さまざまな角度から改善策を検討してきました。

**外濠にきれいな水を引き込み 汚水の流入を防止する策も進む**

水質改善のために協議会が取り組んだのは、玉川上水などからきれいな水を外濠に引き入れることです。外から清らかな水を導くことで、水の滞留時間を短くし、ため池のように水がよどむ状態を改

は確認できず、過去に北側3濠で繁茂していた水草を復元させることによる水質改善の可能性は低いと判断されました。

**参画企業の技術と知見が 外濠の水質改善検討に寄与**

そこで、弁慶濠と北側3濠が地形的・水域的に類似性を持つことに着目し、弁慶濠で繁茂しているホザキノフサモを北側3濠に移植することで水質改善が図れるのではないかと仮定しました。その可能性を検証するために室内試験を行ったところ、ホザキノフサモがアオコの発生を抑制する効果が確認されました。

この結果から、今後予定されている導水による改善策に加えて、水草が持つ自然の浄化力を活かすことで、北側3濠の水質改善をさらに高められる可能性が示されました。

以上の対策の複合効果で、北側3濠の水質改善が見込まれることが分かりました。水質改善の効果を確認し、必要に応じて水生植物浄化法の導入の是非を評価することが必要といえます。

これらの調査は前田建設工業の土木技術部が主体となり、協議会メンバーの各社が参加。さらに法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科の協力を得て行われたものです。参画企業の技術と知見が大いに活かされて、東京都の外濠浄化プロジェクト設計検討に寄与することが期待され、非常に意義深い取り組みとなっています。



実際の水質調査の様子



市ヶ谷濠の底泥を採取し、底質埋土種子発芽試験を実施



水草の水質浄化効果が期待できるかを検証。水草を入れた水槽は水がきれいになった

善できます。また、水質悪化の要因となる栄養塩類の濃度を薄める効果も期待できます。

協議会では2019年から法政大学の鈴木善晴教授と協力し、きれいな水を導入した場合の効果を調べるシミュレーション(生態系水循環解析モデル)を行いました。北側3濠・市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠を対象に、水の量や質、滞留時間、栄養分の変化、生物の働きなどを総合的に評価するモデルを構築しました。

シミュレーションの結果、導水量を増やし、雨の日の下水の流れ込みを抑える対策を組み合わせると、アオコの原因となる「クロロフィルa(藻類の量を表す指標)」が減少することが分かりました。導

## 「学」の取り組み

## 景観・文化から魅力を再発見



外濠を学び、実体験を通してその価値を見つめ直す活動

「外濠市民塾」は、市民自らが外濠の魅力と課題を発見し、未来像を描くことを目的として設立された市民学習・協働プラットフォームです。外濠について学び、体験しながらその価値を見つめ直すことで、外濠の活かし方をみんなで考える活動の場として、メンバーが積極的に動いています。

外濠水辺再生協議会とは志を同じくし、協力関係にあります。企業が主体の協議会に対し、外濠市民塾は市民参加型による学び重視の活動が特徴で、外濠について市民、学生、研究者、地域関係者が一緒に外濠を深く知り、そこから将来の姿をイメージしようと、さまざまな取り組みを行ってきました。



おぼんカウンターを使った外濠昼食会



セミナーやワークショップなど幅広い活動で外濠を学ぶ

2013年から法政大学名誉教授の陣内秀信氏を代表に活動が始まり、法政大学、東京理科大学、日本大学、中央大学などの学生たち、市民、専門家、地域関係者などが主体となって継続的に活動しています。

主要な活動内容は①セミナー(講座)、②まちあるき、③ワークショップ、④記憶のアーカイブ(聞き取り・資料化)です。セミナーでは、外濠の歴史文化、都市環境、社会的価値についての学びの場を提供。地域の方や専門家を招いた講演では、江戸時代の水路構造、外濠の景観、周辺の生活史などをテーマに深く学びます。まちあるきは、外濠沿いの都市空間を専門家の解説付きで歩くフィールドワーク。セミナーで学んだ知識を、実際に歩くことで体感する学習手法として実施します。

ワークショップは、参加者同士で意見交換を行うイベント。市民視点の外濠未来像を描き出す体験型の取り組みです。記憶のアーカイブは、地域住民からのヒアリング調査による歴史記録の収集・記録整理を行うもの。外濠と関わってきた住民の記憶や生活文化を記録し、HPに蓄積していきます。

例えば2024年6月に実施された

「まちあるき×路上観察」ワークショップは、路上観察の専門家を招いて、外濠周辺の「路上の見慣れた風景に改めて視点に向けたもの。普段見逃しがちな名所や風景の価値を再発見し、参加者と一緒に「外濠新名所案内外三十六景」を作るというユニークな活動が行われました。

### 外濠市民塾のアウトプットは 東京都知事にも届けられている

外濠市民塾は、市民参加型の学びの「場」としての役割を担い、学術的かつ社会的価値のある取り組みを行っています。外濠周辺の大学の学生と教員が関わり、外濠を研究プロジェクトとして捉えることで実践的な学びにもつなげています。また、協議会の技術的な行政連携型のアウトプットとは異なり、あくまで市民・地域感覚で外濠の価値を見だし、生活文化の視点から外濠の魅力・課題を議論する活動が特徴でもあります。

外濠市民塾が作成したアウトプットは、外濠再生における市民視点の未来像「外濠ビジョン2036」や「外濠再生憲章」(外濠の価値と行動原則を共有)などへのインプットとして活用されてきました。市民塾の提言の一部は、これまで「玉川上水・日本橋川の浄化」など、大学総長連名の提言書として都知事宛てに提出されるなど、行政との対話の足がかりにもなっているのです。

外濠市民塾は、「市民自身の目で外濠を感じ、考え、未来を描く」ためのプラッ

トフォームとして精力的に活動することで、外濠再生の議論に生活者視点・文化的価値の視点をしっかりと取り入れる役割を果たしてきたことは、大変意義深いことだといえるでしょう。



ワークショップで制作した「外濠新名所案内外三十六景」



「外濠水上コンサート 奏-KANADE-」を開催して水辺の活用を実現している



まず最初にルートマップやフライヤーを作った外濠を歩き、外濠の魅力や課題を議論する勉強会を行って知見を広げる



EXPO 2025 Report

### これまでの外濠市民塾の主な活動

第0回 2013年 4月 3日 キックオフまちあるき(赤坂見附～市ヶ谷)

第1回 2013年 6月 8日 外濠の誕生と原風景

- 歴史が育んだ水と緑の生活空間(法政大学 岡本教授)
- まちあるき-坂と石垣のまち-(市ヶ谷周辺)

第2回 2013年 9月 8日 外濠の水空間

- 外濠地域のまちの特徴とその可能性(法政大学 高橋名誉教授)
- 江戸の水循環を踏まえた外濠と玉川上水の再生(法政大学 神谷講師)
- 座談会>ワークショップ(外濠の価値再発見)

第3回 2013年11月30日 外濠周辺のまちづくり

- 都市計画の視点から街づくり(東京大学 窪田准教授)
- まちあるき-外濠の内と外(飯田橋～田安門)

Web企画 いいね!外濠発見Webフォトコンテスト(2014年3月10日～4月13日)

第4回 2014年10月18日 外濠の水質にせまる

- なぜ外濠の水は季節によって色が変わるのか(東京大学 栗栖講師)
- フィールドワーク(水質調査)>ワークショップ(水質検査)

第5回 2015年 4月11日 地形から見る四谷の今昔Part1

- 地形から見る四谷の今昔(法政大学 森田教授)
- ウォーキングラリー(四谷若葉地区)>ワークショップ

第6回 2015年10月10日 地形から見る四谷の今昔Part2

- 地形から見る四谷の今昔(東京スリパチ学会 皆川会長)
- ウォーキングラリー(三栄町～荒木町)>ワークショップ

第7回 2016年 4月24日 外濠の将来を考えよう

- 外濠の歴史と現状について(法政大学 高道氏)
- ワークショップ(こんな外濠にしたい)

第8回 2017年 4月22日 外濠をあそぶ-未来へつなげる地域の記憶と体験-

- 外濠憲章・外濠ヒアリング(地域の方々へ学生が取材・発表)
- まちあるき>ワークショップ(外濠のあそび方を考える)

外濠水辺調査会 2018年4月14日 文化財観察・記録(三輪学園高等学校と共同)

第9回 2018年 7月15日 いま、外濠をどうするのか? -濠からかいほりへ-

- 新見附濠調査報告(三輪学園外濠フレンズ)
- 井の頭公園かいほり事業について(NPO法人生態工房 片岡理事)
- ワークショップ(外濠2020-2036ワークショップ)

第10回 2019年 8月 7日 外濠濠工事見学(外濠公園～小石川橋)

第11回 2020年11月29日 外濠Bar -おぼんカウンター作成-

第12回 2021年 5月21日 オンラインセミナー

- 「濠」で囲まれた日本の都市・・・「外濠」の原景を探る(東京理科大 伊藤教授)

第13回 2021年 7月21日 オンラインセミナー

- 外濠150年-未完の都市計画公園としての外濠変遷-(NPO法人神田学会 小藤田理事)

第14回 2021年10月27日 オンラインセミナー

- タイムトリップ江戸から東京へ-千代田と江戸城外堀の風景-(元千代田区立日比谷図書館学芸員 後藤氏)

セミナー2024年3月14日 水辺解放に向けた地域・建築デザイン(日本大学 菅原遼助教)

第15回 2024年 6月 1日 路上で発見!!わたしたちでつくる外濠新名所

- セミナー(路上観察学会 林文二氏)
- まちあるき(北三濠)>ワークショップ

※肩書・所属は開催当時のもの

## 「官」の取り組み

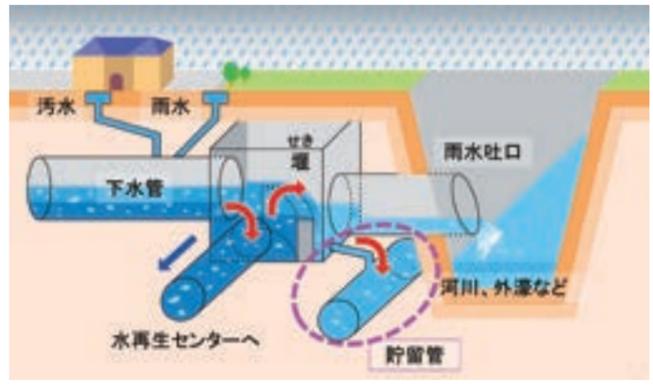
## 外濠の未来を創る



## 外濠浄化に向けた導水の取り組み



## 合流式下水道の改善事業



そこで東京都では、外濠で発生するアオコの大量発生を抑制し、水質改善を図るために3つの対策に取り組んでいます。まずは、外部からの導水で濠水の滞留を防止することによる水質浄化です。次に、合流式下水道の改善による窒素やリンなどの汚濁負荷量の削減です。そして、その2つの取り組みが完了するまでの暫定的な対策として、薬剤散布によるアオコ

の沈降、以上の3つの対策が進行中です。  
**東京都の関係局が連携し 役割分担して施設整備を推進**  
 導水による外濠浄化に向けた取り組みは、具体的には、導水ルートを整備し、多摩川上流水再生センターの下水再生水と荒川の河川水を導水することで、5日間滞留する前に濠水を入れ替えるという

2022年以降は、外濠の歴史的価値や外濠の水辺再生事業について、都民の理解・関心を高めるための各種事業や広報活動にも積極的に取り組んできました。具体的には、外濠の歴史的価値や維持管理の大切さを伝えるための子ども向け勉強会や、デジタルを活用した情報発信などに努めています。  
 子ども向け勉強会については、2022年度から実施しており、好評をいただいています。2025年度も千代田区や新宿区と連携して、地域の小学生を対象にして実施し、参加した子どもたちからは「きれいになった外濠で水遊びがしたい」「もっとイベントを開催してほしい」などと、外濠への思いが数多く届きました。  
 また、2024年度からはより多くの人に興味と関心を持ってもらおうと、外

**勉強会などで広報に尽力 プロジェクトアクションマッピングも**  
 2022年に策定された「外濠浄化に向けた基本計画」に基づき、新たな導水路整備等の詳細調査や基本設計などを実施中で、2030年代半ばの施設整備の完了を目指しています。本事業は東京都の関係局が連携し、役割分担して施設整備を推進しています。2025年度は導水施設の設計や管理者協議を進めて、年度内には施設整備を具体化するための実施計画を策定する予定です。

**「2050東京戦略」に掲げられた 外濠浄化プロジェクトが進行中**  
 東京都都市整備局では、外濠を都市の魅力ある水辺空間として再生する外濠の水辺再生事業に取り組んでいます。これは、東京都が策定した都市戦略「2050東京戦略」でも掲げられている重要な取り組みの一つです。  
 都が2021年3月に策定した「未来の東京」戦略には、外濠の水質を改善することを明記しました。「未来の東京」戦略は、その後もバージョンアップされたものが公開されており、引き続き外濠の水質改善が戦略として明記されています。これに従い、外濠浄化に向けた基本計画が策定されています。  
 事業の目的は、歴史的財産である外濠の水質改善を進め、都心で働く人々に癒やしの場を提供するとともに、品格ある景観を形成して地域全体を活性化することです。魅力あるまちづくりへつなげていき、外濠浄化の推進を契機として、「水都」東京をよみがえらせることです。  
 2022年に策定された「外濠浄化に向けた基本計画」では、3つの濠(市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠)を対象に、外濠に導水するための施設の整備を進めています。  
 3つの濠では、ともに水環境の悪化が懸念されており、その理由は流入水が少なく、水が滞留しやすい「閉鎖性水域」と

## 外濠におけるアオコ発生状況(市ヶ谷濠)



いう外濠の特性によるものです。結果、アオコの発生による水質悪化が起こりました。アオコの大量発生は、①濠水の水温が25℃を超え、②窒素・リンが豊富な水質状況となり、③濠水の滞留時間が5日間を超えることの3つです。現在の外濠の水辺空間は、アオコの発生に伴う景観障害や異臭といった都市環境の悪化を招いています。

プロジェクトアクションマッピング、都民向け勉強会に関しては

P18-19へ

# 外濠再生が創る 新・東京の姿

EXPO 2025  
Discussion

2025年11月11日に DNPプラザで開催された「外濠EXPOシンポジウム」。  
シンポジウムの後半では、パネルディスカッションが行われました。その詳細をご紹介します。



行政、市民、企業がそれぞれの立場で  
東京の未来の姿を語り合った

パネルディスカッションに登壇したのは、東京都都市整備局まちづくり調整担当部長の新良京子氏、外濠市民塾のメンバーで法政大学教授の福井恒明氏、東京スリバチ学会会長の皆川典久氏、外濠水辺再生協議会の安井利彰氏の4名です。なお、同協議会のメンバーである角川アスキー総合研究所の玉置泰紀氏がモデレーターとして、司会進行を務めました。

東京スリバチ学会は、2003年に皆川典久氏らが設立した、東京の「スリバチ状(谷・凹凸)地形を巡って記録する任意団体です。NHKの人気番組「プラタモリ」への地形情報提供をはじめ、地形ブームの先駆けとしても知られます。2014年にはグッドデザイン賞を受賞。東京の台地や斜面の魅力を発掘するなど、幅広く活動しています。

このパネルディスカッションは、外濠の歴史と環境、そして未来について市民と研究者、企業、行政とが意見交換する場として企画されたものです。参加者がそれぞれの立場から、外濠と東京の水辺の未来をテーマに、活発な議論を展開しました。

冒頭では、東京スリバチ学会の皆川氏より、東京の地形の視点から歴史を踏まえた「水の都東京」の未来図が紹介されました。

「このパネルディスカッションは、外濠の歴史と環境、そして未来について市民と研究者、企業、行政とが意見交換する場として企画されたものです。参加者がそれぞれの立場から、外濠と東京の水辺の未来をテーマに、活発な議論を展開しました。」

「皆川さんが見せてくれたイメージ図などがあると、私たちも話がしやすいです。今までの東京にはなかった水辺の景色を創出したいという思いは、私にとっても共通するものです。」

福井「皆川さんの描かれた未来図を見せられると、私は正直悔しいんですよ(笑)。やはりあのような絵があると、具体的な議論が始まりますからね。皆川さんのあそこまで踏み込む勇氣と、素晴らしい構想力はとても大事なので、私としては、どうやって追いかけていこうかと今考えています。海外では、大胆に水辺を復元する気運があり、成功例も実際にあるのですが、東京はどうしても慎重になりがちなので…」

安井「私の本職は土木畑なので、どうやってあのようなものを造るのかという

続いて都庁の新良氏より、東京都の立場から「水資源」と「開発」が結び付き、外濠と日本橋川沿川が重要であるという話がありました。

「これまでの東京にはなかった  
「水辺の風景」を創出していきたい

新良 「私の部署では、日本橋川沿川にぎわいを創出する取り組みを進めているのですが、同時に外濠についても水質を改善して、都民に親しまれる空間にするための街づくりを考える立場にあります。今日は皆さんの話を聞きながら、今の仕事にも反映させていければと思っております。日本橋川の取り組みなどは、かなり柔軟な発想も必要で、これまでにない制度運用も視野に入れて、議論されているところだと思います。その意味では、先ほ

名所になっています。実はこのKK線は、かつては外濠だったので、私はさらに先を見据え、2050年を目標に旧KK線を外濠に戻したいと、勝手に妄想しております。数寄屋橋や鍛冶橋も橋の姿で復活するし、例えば地方から東京にやって来た人が、東京駅や羽田空港から船に乗って都心の観光地まで移動できるという未来です。どうです。すてきだとは思いませんか」

皆川氏は、江戸の遺構を活用した都市再興プランの効果として、河積増による遊水増強で東京強靱化への寄与や、東京駅を中心とする舟運ネットワークの構築を訴えます。さらに、水循環による環境先進都市の模索という魅力的な提案が含まれていました。

**東京高速KK線の遊歩道化に  
独自の視点による提案も**

皆川 「東京都の取り組みで、KK線が近く遊歩道化されますね。銀座・有楽町の真ん中に空中回廊が生まれるという楽しみな計画ですが、ニューヨークでも、高架貨物線を歩道化した「ハイライン」が

鹿島建設建築設計本部勤務。2003年にランドスケープデザイナーの石川初氏(現在は慶應義塾大学教授)と東京スリバチ学会を設立

パネリスト紹介



東京都都市整備局  
まちづくり調整  
担当部長  
新良京子氏

都市づくり政策や都市基盤整備に関する業務に携わる。都市基盤部交通企画課長などを歴任し、2024年度より現職



東京スリバチ学会  
会長  
皆川典久氏

鹿島建設建築設計本部勤務。2003年にランドスケープデザイナーの石川初氏(現在は慶應義塾大学教授)と東京スリバチ学会を設立



外濠市民塾  
法政大学教授  
福井恒明氏

千代田区景観アドバイザー、都市景観大賞審査員などを務めるほか、2024年には土木学会出版文化賞を受賞



外濠水辺再生協議会  
技術分科会 会長  
安井利彰氏

前田建設工業 土木事業本部 土木技術部に所属。2024年度より外濠水辺再生協議会 技術分科会会長として活動



外濠水辺再生協議会  
玉置泰紀氏

産経新聞〜福武書店〜角川4誌編集長。国際大学GLOCOM客員研究員。一般社団法人メタ観光推進機構理事。京都市埋蔵文化財研究所理事

視点でつい考えてしまっただけですね。そうなると思われがちですが、実際には困難を伴うかと。でも大阪出身者としては、道頓堀を造ったことで人を引き寄せた事実をよく知っているもので、やはり水辺に人を近づけることが、第一歩になるのかなとは思っていますね」



**福井** 「私も土木の人間ですから、水面と道路の関係性について考えてまいります。特に外濠は文化財でもあり、両側を公園・鉄道・道路に挟まれて活用がやりにくい。商業施設が面する道頓堀とは大きく違うんです。外濠の場合は道路をどうするかという課題があります。まず外堀通りの車線を減らして、歩道を広げて水辺に下ろすところから始めれば、突破口になると思っています」

**新良** 「外濠については、来年度から導水路の整備に向けて動き出す年になると思います。別の部署では、世界遺産への登録を見据えて、江戸の文化を伝える場所の創出事業を進めており、都庁全局の取り組みになっていて、外濠の水辺再生事業もその一つに位置付けられています。外濠の価値を見つめ直す勉強会を実施し



皆川氏が作成した外濠復活後の未来イメージ図。「水の都」復権といえる図が議論のきっかけになれば、と皆川氏はほくそ笑む

くても、しっかり水が循環できる仕組みを持つていました。我々もそこから学ぶべきなのです。他の都市がうらやま豊富な水と地形があるのだから。武蔵野台地は、関東ローム層(赤土)なのですが、これはスポンジに例えられるような地質であり、まさに、水を蓄えるのにふさわしい土地です。SDGsとか、サーキュラーエコノミーのヒントが、実は東京にたくさんあるということをぜひ認識してほしいですね」

**福井** 「それは、とても大事な話なんです。もし首都直下地震が起きて、電気も水も来なければ大変な事態になりますよ。でもその時に玉川上水が機能していれば、水を賄うことができる。400年を経てそんな都市構造が残り、周辺の歴史や文化のDNAをしっかり復活させることができれば、世界遺産の可能性も見てくるのだと思います」

**これほどの緑と水が、東京の中心にあることをもっと誇りに思いつべき**

**福井** 「江戸時代の再現とはいっても、城郭内と町人地ではまったく違う。そこはしっかり検証する必要があります。例えば商業施設として城下町風の装飾をするような単純な話ではないですね。江戸城下町の構造は複雑で、中心に江戸城があり、そのまわりには大名や旗本が住んだ武家地があります。さらに町人地や寺社地もあります。それらを区別しなければなりません。かつての城門を現代

的な建造物で概念的に再現するような方向性は、イタリヤに事例がありますね」

**安井** 「イタリヤといえば、ベネチアが世界遺産に登録された時に、審査対象の全項目をクリアしたそうです。これ、実はとてもすごいことなのですが、その中に「シンボル」という項目があるんです。では、世界遺産になれる東京のシンボルとは何だろうか。私は、外濠を含めた旧江戸城跡に、何か東京のシンボリックな存在があればいいかと思っています」

**皆川** 「城郭と町人地の構造を有し、それに独特なスリバチ地形が絶妙に組み合わせられた江戸の町は、時代の変遷とともに造り替えられてきました。そこで更新された部分と、残っている部分の『断面』が見える場所が東京にはあります。外濠はまさに、その断面を見せるところだと思っんです。それが人々の日常生活の中で見せられるところに、外濠の大きな可能性があるんです」

**新良** 「東京の都心部にはこれほどの水をたたえた空間があり、しかも緑が豊富です。こんな都市は、海外ではほぼ類例がないと思います。国内でも城がある所に堀が残っているのは理解できるのですが、城がないのに外濠が現存しているのは、ある意味で東京らしい現象なのかもしれないですね。江戸の人たちは、さまざまなことに挑戦して、自分たちのマインドを文化に落とし込むことに長けていたはず。それは本当にリスベクトでできず、東京の真ん中に水辺と緑があるこ

たり、今回のプロジェクトシミュレーションマップもその一環で企画したものです。インバウンドの方をはじめ、これが大変好評で、外濠に関心を持っていただけたという手応えがありました」

**東京のスリバチ地形を活かせば「水の都」の復活に寄与するはず**

**安井** 「外濠の水質改善の話だと、下水からの放流量を減らす対策は、非常に分かりやすいとは思いますが、これを減らし過ぎると、その分外部からのきれいな水の導水量を増やさなくてはいけない。インとアウトのバランスと、循環の計算がとても難しいんです。シミュレーションも大事だけど、やはり実際にやってみないと分からない部分が多い。これは、やりながら効果を確かめつつ、検証しながら進めていくのがいいでしょうね」

**皆川** 「そのような技術的な難しさはよく分かります。けれども、人間が造ったものならば、絶対に克服できるだろうと思います。東京の水循環については、それを可能にする地形の高低差があるわけですね。このポテンシャルを活かさない手はないでしょう。例えば復活する玉川上水から千川上水などに分水されれば、水のネットワークが構築され、武蔵野台地のヒートアイランド対策にも非常に有効です。井の頭池など、私の大好きなスリバチの湧水が復活する可能性だってある。これほどのポテンシャルを持った都市は、世界に類を見ないと思うんです。これ



パネルディスカッションはざっくばらんな雰囲気で行進。それぞれ知識の専門分野が異なるからこそ、笑顔の絶えないシンポジウムとなった

を活かすことは日本環境モデルにも絶対につながると思います」

**水と緑が土地を潤して酷暑対策に「グリーンインフラ」が進行中**

**新良** 「従来は難しかったのかもかもしれませんが、自然地形を都市造りに活かすという発想に、東京もようやく目を向けられるようになったと、今は感じています。東京都では、『グリーンインフラ』という呼称を使っていますが、緑があつて水が潤潤して土地を潤し、酷暑対策につながるという発想は既に始めています。ただ、それがどのくらいの規模でできるかということがポイントなので、いい都市造りをするためにもしっかりと検討したいと思います」

**皆川** 「江戸時代の土木技術は極めて先進的で、現代のように化石燃料に頼らない試みなんてどうでしょう。また、日本橋の界隈には、かつて運河がたくさんあつて、まるでベネチアのような風景が広がっていました。今でも掘り返せば護岸の石垣がゴロゴロと出てきますよ。『水の都』として再生させる取り組みで、東京はもともとと面白い街になるはずだと、私は確信します」

とを、私たちはもっと誇りに思っていると思います。それを踏まえて、日本の首都である東京の都市づくりをしつかり進めていきたいと考えます」



専門家同士の鋭い議論にも皆さん笑顔で対応

EXPO 2025 Discussion



シンポジウムに参加したメンバー。イベントを通して、今後の外濠の可能性がかなり広がった

外濠についてみんなで学ぶ

# 都民向け勉強会



**イベント名**  
外濠の水辺再生事業に関する  
都民向け勉強会2025

**開催日**  
2025年11月15日 13:00~17:30

**開催場所**  
飯田橋グラン・ブルーム12階  
前田建設工業会議室



「都民向け勉強会」は、初開催ながら100人の定員が満員になるほど盛況。外濠市民塾のメンバーがガイド役を務め、外濠の現状を知る良い機会となった

**外濠に残る遺跡や地形を見学し  
歴史的背景や環境課題を学んだ**

東京都では、歴史的財産である外濠の水質を改善する「外濠浄化プロジェクト」を進めています。都心で働く人々に癒やしの場を提供するとともに、品格ある景観の形成により、地域全体の活性化を図る目的で推進されています。江戸時代に造られ、近く400周年を迎える外濠は、東京の重要な史跡であり、その歴史的価値や外濠の水辺再生事業について広く知

参加者からは、講演やガイドツアーを通じて「今ある景観の意味がよく分かった」といった声や、実際に歩きながら学ぶツアー形式が好評だったようです。資料や説明だけでは得られない「現地ならではの気付きが得られた」という旨の感想が多数寄せられ、意義深い勉強会となりました。

さらに、参加者はグループに分かれて、実際に外濠周辺を歩くフィールドワーク形式の歴史ツアーを体験しました。外濠市民塾の有志がガイド役を務め、外濠に残る遺跡や地形の特徴を見学しながら、歴史的背景や現在の環境課題について深く学びました。

当日は、会場のJR飯田橋駅前飯田橋グラン・ブルーム12階前田建設工業会議室に約80名の参加者が集まり、まずは都の担当者より外濠の水辺再生事業についての説明が行われました。続いて、法政大学文学部の米家志乃布教授による基調講演「歴史的財産を学ぶ」が実施され、江戸城外濠について学びました。

2025年11月15日、東京都都市整備局が主催し、外濠市民塾と外濠水辺再生協議会の協力の下で実施されたイベントが、「外濠の水辺再生事業に関する都民向け勉強会2025」です。

「2025年11月15日、東京都都市整備局が主催し、外濠市民塾と外濠水辺再生協議会の協力の下で実施されたイベントが、「外濠の水辺再生事業に関する都民向け勉強会2025」です。」



令和に「水の都」が蘇る

# プロジェクションマッピング

**イベント名**  
江戸城外濠プロジェクションマッピング2025

**開催期間**  
2025年11月20日~11月23日 17:00~20:30

**開催場所**  
江戸城外濠<sup>のりめん</sup>水辺法面  
(新宿区市谷田町三丁目約100mの区間)

**外濠の豊かな水辺再生への可能性が込められた内容が好評**

東京都は「外濠浄化プロジェクト」への都民の理解を深め、より多くの方に外濠に興味・関心を持ってもらうため、外濠の景観を活かしたプロジェクションマッピングを2025年11月に投影しました。江戸城外濠跡に、青い水の流れから始まる光の物語が映し出され、金魚が泳ぎ、和柄が巡り、椿と牡丹が咲き乱れる光の祭典が繰り広げられました。

浮世絵、時絵、和傘、金屏風といった日本の美を最先端映像で鮮やかに映し出す構成は、デジタルクリエイティブカンパニーの「二旗」が担当。水の都・東京の豊かな水文化の継承と、未来へと続く東京・外濠の水辺再生の可能性への期待が込められ、大変好評でした。

外濠の法面にさまざまな映像が映し出され、ひと目見ようと4,000人以上が足を運んだ





みんなの  
外濠！  
外濠水辺再生協議会